

胃部X線デジタル検診車整備事業完了

この度、平成26年度の競輪の補助を受けて、検診車整備事業を完了しました。
今回導入した検診車は、最新のデジタルシステムを搭載しており、精度が高く、上部消化管における生活習慣病の早期発見が的確に行なえます。また、車輻が小型化し、活動範囲が拡大しますので利便性が高く、今後の生活習慣病の予防に極めて効果があると思われれます。



本検診車は聴覚障害者及び外国人支援システムを搭載しており、従来マイクにより撮影動作を音声で伝えていましたが、これからは、撮影室内のモニターに撮影動作内容を文字とイラストで映し出しますので、耳の不自由な方もスムーズに検査が受けられます。
また、英語、中国語、ポルトガル語の表記も可能となっておりますので、外国人が働く事業所などでも積極的に活用することにより、より一層県民の健康の保持・増進への寄与が期待されます。



公益財団法人 静岡県産業労働福祉協会

〒421-0113 静岡市駿河区下川原 6 丁目 8 番 1 号

TEL054(258)4855(代) FAX054(258)4403

<http://www.kenshin-shizuoka.net>

E-mail: info@kenshin-shizuoka.net

胃バリウム検査のお話

こんにちは。診療放射線技師の望月英紀です。皆さん、胃のバリウム検査と聞くと、苦しい、きつい、検査後が大変といったマイナスなイメージしかないと思いますが、実は、それを踏まえてでも、ぜひ受けて頂きたい検査なのです。



検診のおすすめ

いま日本の死因第1位は『がん』であり、そのなかで「胃がん」は第2位(2013年統計)です。

以前、大人気のお笑い芸人さんが、胃がんに罹患されたことは有名ですが、その方は発見が早く、すぐに治療を始めることができたので、活動再開も早かったですよね。

つまり、病気というのは、早く見つけることができれば、それだけ早く対処でき、仕事や家庭への影響、経済的な負担も少なくなります。実際、当施設では、受診者さまの約15人に1人は、さらに詳しい検査が必要であるとの判定が出ています。その後、精密検査によって最終的な診断がつき、早くに治療を始められた方、経過観察とのことで安心したという方など様々ですが、どちらも、健診が、ご自身の身体と向き合う良いきっかけになったというお声を頂いております。

だから、**私たちは健診をお勧めしています。**検査が怖いとか大変という方、自覚症状の有る無しに関係なく、年に1回のチャンスを逃さず、ぜひとも活用して下さい。

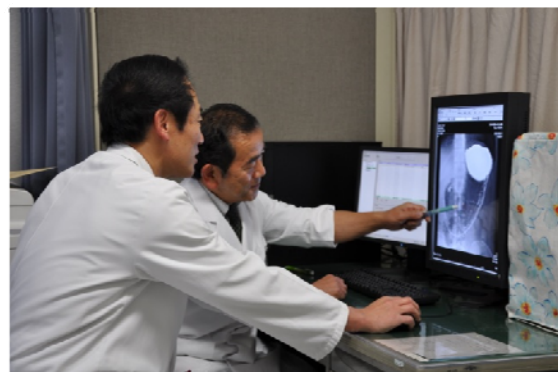
検査の内容

次に、検査のことを簡単にお話ししますと、胃のバリウム検査では、最初に発泡剤、次にバリウムを飲みますね。そこで辛いのが『ゲップを我慢する』そして『身体をゴロゴロ動かされる』ことだと思います。これは、発泡剤で胃を膨らませ、そこにバリ

ウムをコーティングすることで、胃粘膜の細かな皺(ひだ)まで撮影しているのです。そこでゲップをしてしまうと胃が萎んだり、身体の向きが合わないと、きれいな画像が撮れません。私たちも、時間短縮と分かりやすい声かけを心掛けておりますが、ぜひ、ご理解とご協力をお願いしたいと思います。

画像の診断

検査後の画像は、消化器の専門医(複数)、総合判定医(理事長・丸山)、そして胃がん検診認定技師である私とのトリプルチェックで、1枚1枚丁寧に読影させて頂いております。また過去数回分の画像との比較読影を実施し、無駄な精密検査を省くよう努めております。



皆さまが貴重な時間を割き、大変な思いをして受けて下さった検査ですから、このようにして正確な判定・的確な指示に心掛け、異常の早期発見と共に、皆さまの健康維持のお手伝いができるよう努めております。

おわりに

いかがでしたか。これを読んで、健診に対するイメージが、少しでも変わったと思っていただければ幸いです。

ご不明な点がございましたら、お気軽に当施設までお問い合わせ下さい。

それではまた、胃検診でお会いしましょう。ありがとうございました。